

演出家ジョルジュ・デルノンが語るびわ湖ホールへの想い

ホールロビーに入るとすぐにデルノン氏は、ああ、やっぱいいここはいい劇場だなあ。この贅沢な空間、素晴らしい眺め……と、しばし感慨をかみしめていた。そして袖から舞台上に上がる時は、感嘆の声すらあげていた。それから一言一言大切に、話を始めてくれた。

「びわ湖の景色が好きで、最高のリゾート地に来たような気分になります。そしてなによりびわ湖ホールは大好きです。どこが好きかって、とにかく全てが素晴らしい。建築物としても興味深いし、内部のそれぞれの部分も居心地がいい。舞台の袖には広い空間があり、設備も整っている。掃除が行き渡っていて、整理整頓が完璧にされている。このような劇場が他にあるでしょうか。その上、プロフェッショナルでいかなる要求にも全面的に協力してくれるスタッフがいます。このびわ湖ホールとの共同制作でなければ、私の3回目の演出となる『ゴジ・ファン・トゥッテ』に再挑戦しようという気持ちも起きなかつたかもしれません。びわ湖ホールのために私が作品の神髄に迫った演出を生み出し、沼尻監督や日本人のキャストと共に創り上げるこの『ゴジ・ファン・トゥッテ』は私にとって新しい挑戦になるでしょう。」

『ゴジ・ファン・トゥッテ』は他のダ・ポンテ三部作『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』と並んでモーツァルトのオペラの傑作ですが、他の2作品が、階級制度や当時の社会背景を抜きにして理解するのが難しい作品であるのに対して、『ゴジ・ファン・トゥッテ』は時代も国境も越えて存在する、人類普遍のテーマを題材にしていると言え

沼尻竜典オペラセレクション びわ湖ホール・バーゼル歌劇場共同制作

モーツァルト作曲

歌劇『ゴジ・ファン・トゥッテ』(全2幕)

イタリア語上演・日本語字幕付



演出
ジョルジュ・デルノン
(スイス・バーゼル歌劇場総裁)

ジョルジュ・デルノン Georges Delnon

ベルン大学とフリブール大学にて文学と文化史を、ベルン音楽院で作曲と音楽理論を学ぶ。数々のオペラ作品の演出を手がけ、1996～99年 コブレンツ市立劇場総裁、99～2006年 マインツ歌劇場総裁、06/07年シーズンからバーゼル歌劇場総裁、09年 シュヴェツィンゲンSWR音楽祭の芸術監督をつとめる。

ルツェルン音楽祭主催のマスタークラス他、各地の大学でも教鞭をとっている。

るでしょう。そこに私は今回の共同制作の意義を感じるのです。ヨーロッパで生まれたオペラという芸術形態を日本に押し付けるのではなく、人類普遍のテーマを東洋的思想で受け止める日本の皆さんからも学びながら演出し、それをバーゼルで披露できることこそが真の共同制作ではないかと私は確信しています。

私から見ると西洋では、キリスト教思想が根底にあるせいか、苦難を最重要視する傾向があると思います。愛情関係も社会も政治もすべて、苦しみや戦いを伴わなければユートピアに到達できない、とすら考えられています。が、個人的には、それは残念なことだと思っています。この作品に秘められた悲劇性も喜劇性も両方楽しんでもらいたいからです。西洋と

東洋の融合が見られるような哲学観を感じられる演出ができれば本望です。

『ゴジ・ファン・トゥッテ』を通して観客は、裏切り、愛情、貞節、憧れ、天国への憧憬、さらには時間という観念、共に生きるための新たな形式などについて熟考することができます。そしてそれらの中で私が特に強調したいテーマが「結婚」です。昔前までは、結婚は「しなけれはならないもの」でした。それ故に、結婚生活は逆に軽んじられてきたという矛盾が起こっていました。結婚しない選択も当たり前になった現在、結婚生活そのものをより重要視する傾向がでてきたと思います。結婚に対する恐れも義務もなく、それを選択する事が可能になった今の世代と共に、もう一度「Hochzeit

(結婚)と『Hoch Zeit(最上の時)』について表現
したいと思います。

また、天国についても興味深い考察ができる
でしょう。アルフォンソの提案による賭けをきつ
かけに、彼らは隠された欲求に支配される世界
へ移行していきます。それは、常識の世界を支配
する時間が止まったことを意味しています。常
識的な時間が止まると、突然、無意識の内面が
表出してくるのです。そして天国への憧憬ともい
える、天国への道が始まります。しかし最後はた
どり着けないのです。西洋人の私にとって天国と
は自由と幸福の象徴ですが、東洋の涅槃との融
合を実現できたら最高だと思えます。

この2組のカップルは今後どうなっていくので
しょうか。現実主義的でない1組は別れるかもしれ
ないし、幻想を排除できたもう1組は新たな
関係を築けるかもしれない。音楽的に見れば、
フィオルディリージとフェランドが主役のカップル
であると確信させる表現がなされています。
『ドン・ジョヴァンニ』におけるドンナ・アンナとド
ン・オッターヴィオ、『魔笛』におけるパミーナとタ
ミーノに共通する、深味のある楽想でモーツァル
トは彼らを描いているからです。しかし、『ゴジ
ファン・トゥッテ』の副題として『恋人達の学校』
というタイトルも付けられています。私の演
出では学校で教わるような、決めつけた規則は
ありません。共演者と共に作り上げたものを、
観客の皆様が二人自由に解釈して、楽しんで
いただきたいと思います。

言葉少なげに話し始めたデルノン氏は、イン
タビュールが進んでいくうちにどんどん雄弁にな
り、確信と共にこう結んだ。20年以上も前に
モーツァルトが描きかけた普通のドラマが、現
代のびわ湖ホールで再現されるのが今からとて
も楽しみである。

(聞き手 中東生音楽ライター)

「ゴジファン・トゥッテ」をびわ湖ホールで上演したいという思いは、芸術監督就任以前に「青少年オペラ」シリーズ(現在の「オペラへの招待」)を担当していた時代からありました。当時は、「このオペラは非道徳的内容を含む」ということで、残念ながら提案は却下されてしまいましたが、今回は「セレクション」シリーズということもあり、やっと実現する運びとなりました。「非道徳的」と言っても、いわゆる男女の「この人もいいけど、あの人もいいな」というよくある話ですから、小学生にだって良くわかる内容ですよ。

今回は日豪の歌手による豪華キャストに加え、ヨーロッパのオペラ専門誌の中で最も権威ある〈Opernwelt=オペラの世界〉で2年連続「年間最優秀歌劇場」に選ばれたパーゼル歌劇場を、制作パートナーとして得ることができ、また同歌劇場総裁のデルノン氏直々の演出、しかも初演はパーゼルに先駆けて〈びわ湖ホール〉で行うということで、いやが上にも期待が高まります。どうぞお楽しみに!

指揮 沼尻竜典 (びわ湖ホール芸術監督)



RYUICHI ARATAKI

指揮：沼尻竜典
演出・照明：ジョルジュ・デルノン

出演：佐々木 典子(フィオルディリージ)
小野 和歌子(ドラベッラ)
高橋 薫子(デスピーナ)
望月 哲也(フェランド)
堀内 康雄(グリエルモ)
ジェイムズ・クレイトン(ドン・アルフォンソ)
合唱：びわ湖ホール声楽アンサンブル
管弦楽：日本センチュリー交響楽団

11月30日(金)・12月2日(日)

両日14:00開演 [大ホール]

S席13,000(12,000)円 A席11,000(10,000)円 B席9,000(8,000)円
C席7,000(6,000)円 D席5,000円 E席4,000円
U30席(30歳以下)3,000円 U24席(24歳以下)2,000円 青少年割引当日券

※()内は友の会会員料金。※U30席、U24席はびわ湖ホールチケットセンター電話受付および窓口のみの取り扱いです。公演当日、年齢確認をさせていただきます。(学生証等年齢のわかるものをご提示ください。)

STORY

グリエルモとフェランドは、美しい姉妹フィオルディリージとドラベッラとそれぞれ婚約している。老哲学者ドン・アルフォンソにそそのかされ、ふたりは恋人の愛をめぐって賭けをすることになる。戦場に赴くことになったふりをして、アルバニア人に変装したグリエルモとフェランドは、あの手この手で姉妹を口説く。姉妹の小間使いであるデスピーナは、ふたりに心変わりやけしげける。女性たちの心は次第に揺らぎ、ドラベッラが姉の婚約者グリエルモに、フィオルディリージもフェランドの口説きに陥落し、男性はそれぞれにショックを受ける。新しい2組のカップルの結婚式が行われるところに、軍隊の帰還が告げられる。姉妹は死ぬ覚悟で婚約者たちに罪を告白すると、ドン・アルフォンソが恋人たちに本当の愛を勉強させるための芝居であったことを明かし…。

プレトーク・マチネ

作曲者モーツァルトや作品の背景を中心に、わかりやすい解説と歌手による演奏を交え、聴きどころや見どころのほか、スイス・パーゼル歌劇場についてもご紹介します。

11月25日(日) 14:00～ [中ホール]

出演：沼尻竜典(指揮者)、ジョルジュ・デルノン(演出家)ほか
参加費：無料 ※申込不要。当日直接会場にお越しください。
問い合わせ先：びわ湖ホール事業部 Tel.077-523-7152

オペラ・ワークショップ

本番を目前に控えた大ホールで、舞台装置や衣裳を間近でご覧頂ながら、演出家等が今回のプランについてお話しします。

12月2日(日) 10:00～ [大ホール]

出演：ジョルジュ・デルノン(演出家)、クラウディア・インコ(衣裳プランナー)
参加費：1,000円(公演チケット提示の方は無料)
※申込不要。当日直接会場にお越しください。
問い合わせ先：びわ湖ホール事業部 Tel.077-523-7152

青島広志がお話して弾くオペラの見方

Part I「ゴジファン・トゥッテ」

声楽家による歌の実演をピアノに乗せて
作品の見どころ・聴きどころをたっぷりご紹介いたします。

11月3日(土・祝) 13:30～ [中ホール]

参加費：1,500円
Part II「椿姫」[2013年2月10日(日)]との2回セット券2,500円
出演：横山美奈(ソプラノ)、小林由佳(メゾソプラノ)
[実演曲] 女も15になれば、岩のように、妹ごらん ほか
チケット発売：9月2日(日) 友の会優先発売：8月31日(金)